

# 瀬戸内市IoT推進ラボ

## 事業の内容

### 事業目的・概要

- 瀬戸内市には、長島愛生園と邑久光明園のふたつのハンセン病療養所があり、国立での設置は長島が最初。治療不可能といわれた患者を隔離するに都合の良い島であったこととともに、気候が温暖で晴れの多い地域性で治癒の可能性を見たからこそこの開設だったと記されている。
- これらの歴史的な背景を持った地域資源を活用し、「瀬戸内-ヘルスケア効果実証モデル」を推進する。IoTを活用して、バイタルデータ（生体情報）、メンタルデータ（感情情報）を正確に取得する。
- 同時に、日常的に気力体力が充実したハイパフォーマンス領域に持っていくための根源療法的なアプローチを試す。つまり、感動したり、興奮したり、楽しんだり、高揚するといったスポーツ、レクリエーション、文化的活動等の観光分野にIoTを展開し、魅力的な旅行パッケージ開発につなげる。

### 重要業績評価指標（KPI）

- ・メンタルヘルスプログラムの受講者数 3年間で累計150名
- ・復職のアドバイス件数：3年間で30社
- ・特徴的な観光施策の開発：3年間で10施策

### 今後の展開

企業向け福利厚生サービスとして、観光とメンタルヘルスケアを同時に実現する新たなメニューを開発提供していく。

### 事務局

瀬戸内エモーショナル解析ラボ（仮）

### 参加プレイヤー

- 瀬戸内市
- 株式会社 J T B 中国四国
- 岡山経済研究所
- 岡山大学医学部
- NPO法人岡山健康医学研究会
- 牛窓研修センター・カリオンハウス
- 株式会社ライフ・リレーションズ・ラボ
- 他、社労士・弁護士

## 事業イメージ

瀬戸内市において、メンタルヘルスサポートと感動体験型エモーショナル観光開発を推進する

